

第52期（2025年12月期）第1四半期
決算補足説明資料

ヤーマン株式会社

2025年9月12日

美しくを、変えていく。

美しさを実現するものづくり。

それを生むのは、尽きることのないアイデアと卓越した開発力です。

理想の美しさをかなえ、世界中に夢や驚きを届けるために、

私たちは新しい「美のカタチ」を追求し続けます。

決算の概要

| (百万円) | 第51期 1Q | 第52期 1Q | 対前年 | 主な増減コメント |
|--------------------|------------------|------------------------------------|--------|--|
| 売上高 | 5,748 | 4,688 | △1,059 | 新規取引先開拓の遅れやインバウンド客の落ち込みなどが影響したこと等から減少。 売上構成は、美容機器80%・化粧品14%・その他6% |
| 売上総利益 (売上総利益率) | 3,408 (59.2%) | 2,844 (60.66%) | △564 | 売上総利益は、利益率の高い直販部門で利益最大化のための広告投資抑制を行ったことにより、売上総利益率は確保できたが減少。 |
| 販売費及び一般管理費 | 3,214 | 3,675 | +460 | 国内の広告宣伝費の投資は、より効率重視。 その一方で、海外は、中国最大のECセール「618」商戦における広告宣伝費増加。 |
| 営業利益 (営業利益率) | 194 (3.3%) | △ 830 (△ 17.72%) | △1,024 | |
| 経常利益 | 15 | △ 812 | △827 | 持分法投資損失の減少や前期から円安傾向となり為替差益を計上。 |
| 四半期純利益 | △84 | △ 877 | △792 | |
| 1株当たり四半期純利益 (円) | △1.54 | △ 15.94 | △14.4 | |

国内は、新規取引先開拓の遅れやインバウンド客の落ち込みなどが影響したこと、前期に買収して連結子会社化した株式会社forty-fourとの共創を目指し、商流の整理を行う過渡期となったことなどから減収減益。
海外は、中国国内の化粧品・美容機器市場の低迷の影響はあったが増収、その一方で中国最大のECセール「618」商戦における広告宣伝費の増加などにより減益。

| (百万円) | 売上高 | | | 営業利益 | | |
|-------|-------|--------------|--------|--------|------------|--------|
| | 51期1Q | 52期1Q | 対前年 | 51期1Q | 52期1Q | 対前年 |
| 通販部門 | 1,133 | 576 | △557 | 285 | 135 | △150 |
| 店販部門 | 1,972 | 1,388 | △584 | 387 | 34 | △352 |
| 直販部門 | 1,650 | 1,588 | △62 | 299 | 162 | △137 |
| 海外部門 | 943 | 982 | +39 | 271 | △185 | △456 |
| その他 | 47 | 152 | +104 | 34 | 89 | +54 |
| 調整額※ | — | — | — | △1,085 | △1,067 | +17 |
| 合計 | 5,748 | 4,688 | △1,059 | 194 | △830 | △1,024 |

(百万円)

| | 25年 4月末 | 25年 7月末 | 増減 | 備考 | | 25年 4月末 | 25年 7月末 | 増減 | 備考 |
|---------------|------------|-------------------|-------------|------------------|------------|------------|---------------|--------|----------------|
| 流動資産 | 25,640 | 24,374 | △1,266 | | 負債 | 3,539 | 3,349 | △189 | 借入金の返済 |
| 現預金 | 16,968 | 16,607 | △361 | | 仕入債務 | 1,030 | 1,026 | △3 | |
| 売掛債権 貸倒引当金 | 3,943 — | 2,468 — | △1,475 — | 中国向け 売掛金回収 | 有利子負債 | 595 | 492 | △102 | |
| 棚卸資産 | 3,725 | 4,224 | +498 | 在庫の適正化 | | | | | |
| 固定資産 | 3,796 | 3,801 | +5 | 保有有価証券 上場で評価増 | 純資産 | 25,897 | 24,826 | △1,071 | 四半期純損失 期末配当 |
| 総資産 | 29,436 | 28,175 | △1,261 | | 負債 純資産 | 29,436 | 28,175 | △1,261 | |
| | | | | | 自己資本 比率 | 88.0% | 88.1% | +0.1pt | |

第1四半期の進捗報告と 今後に向けた施策

近年の顧客の購買行動の変化を鑑み、BtoC販路で直接お客様へ認知拡大を図ったのち、BtoB販路拡大へ波及させスムーズな市場参入を目指す。

BtoC

(認知拡大・市場開拓)

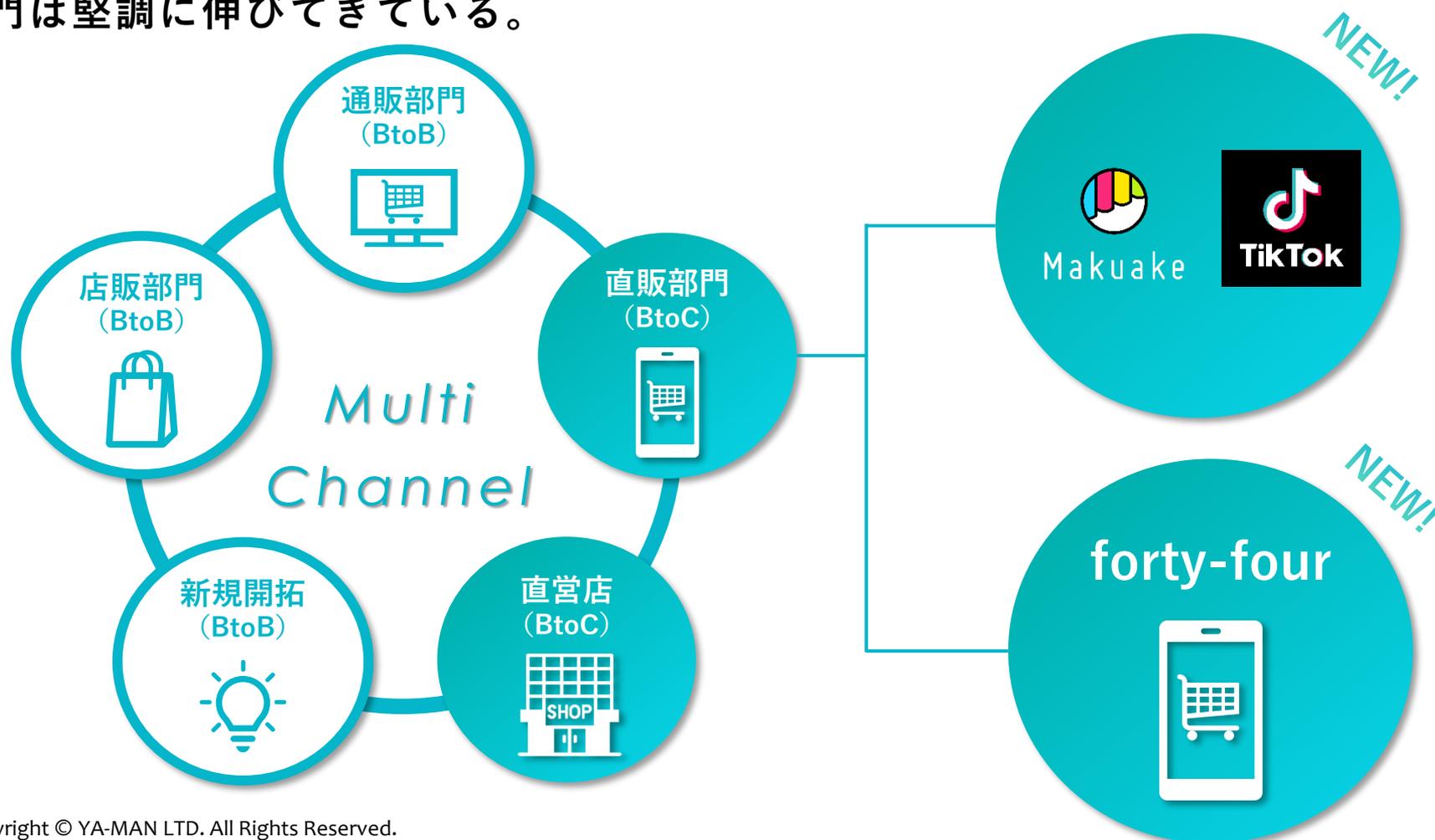
BtoB

(販路拡大)



継続的な粗利改善による管理コストの削減・最適化を行い、
持続的な経営基盤を確保

当期1Qは前期に連結子会社化した株式会社forty-fourとの共創を目指し、商流の整理を行う過渡期となった。進捗としては、直販部門において新しい販路とプラットフォームを追加。BtoC販路である直販部門・直営店部門は堅調に伸びてきている。



グローバルに通用する製品、新カテゴリーにおける革新的な製品を開発。

グローバル



ブルーグリーンマスク リフト

特許を取得した緑色LEDを用いたマスク型美顔器。日本で先行発売するも、インバウンドでも注目を浴びており好調。

新カテゴリー



オーラルリフト

オーラルケアの分野に美容の観点を取入れた電動歯ブラシ。クラウドファンディングサイト「Makuake」の美容家電ジャンルにおいて歴代1位を獲得。

forty-four



聞こえる音 (きこえるね)

2025年8月発売。様々な番組にに応じて自動で最適化する独自の音声解析システムを搭載。簡単操作でテレビの音のはっきり聞こえるスピーカー。

中国

2025年6月に中国国家薬品监督管理局（NMPA）より第三類医療機器として認可を取得。また、主要ECプラットフォームにて前年同期比を大幅に上回るセルアウトを達成。

▶ NMPAの認可取得

中国市場の低迷は依然として続いているが、今後中国美容機器市場において規制優位性を持つ唯一の海外ブランドとして地位を確立し、長期的な収益基盤の構築を目指していく。



▶ 618商戦

天猫(Tmall)電子美容機器カテゴリで『フォトプラス プレステージ SP II』が単品売上1位を達成し、小紅書(RED)美容・フェイシャル機器部門で『リフトロジー』が単品売上1位を達成。



ホームエステブランド「mysé」の本格展開を開始するとともに、「オンリーミネラル」や「Hakase Beaute」の化粧品展開も強化。

▶ mysé

5月にmyséブランドとしてCBE展覧会へ出展。ターゲットを若年層にも広げ、更なる売上拡大を図っていく。ライブコマースでオンラインも強化していく。



▶ オンリーミネラル・Hakase Beaute

「オンリーミネラル」ではライブコマースを強化。Tmall、Tiktokでランキングを獲得。また、「Hakase Beaute」では、5月にCBE展覧会へ出展し、俳優とのタイアップを実施。展開拡大を目指す。



ベトナム

5月以降販売状況が好調。EC展開（Shopee／TikTok）を開始。
10月にホーチミン・ハノイにてイベントを開催し、更に認知拡大を図っていく。



サウジアラビア

オンラインとクリニックにて販売開始。



台湾

34店舗でフォトプラスシャイニーネオの販売開始。代理店グループの百貨店内売り場において展開を強化し、対面販売やKOL施策等で認知を広げ、売上拡大を図っていく。



米国

6月ヘアポリューマーの販売を開始。同月、QVC US.com・Target.comにおいてもヘアケアシリーズの展開を開始し好調。今後はTikTokチャンネルを使用し、認知拡大予定。



2025年「Luxury Lifestyle Awards」世界TOP100美容ブランドに選出

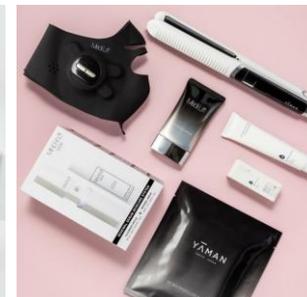
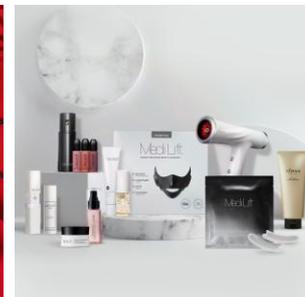
グローバル評価の確立

世界中の美容専門家による厳格な評価プロセスを経て選出され、YA-MANの継続的な実績向上と高い信頼性が明確に示されました。



革新性と実用性の評価

プロフェッショナルグレードでありながら、日々の生活にシームレスに取り入れやすいユーザーフレンドリーな美容ツールが高く評価されました。



この栄誉は、YA-MANが日本の美容テック分野のパイオニアとして、重要な前進を遂げたことを証明するものです。

業績及び配当予想

52期は8ヵ月決算となるため、51期実績を8ヵ月換算した数字と比較しております。

(億円)

| | 51期実績 (12ヵ月) | 【参考値】 51期実績 (8ヵ月) | 52期予想 (8ヵ月) | 対前期 増減額 |
|-------|-----------------|-------------------------|----------------|------------|
| 売上高 | 250.4 | 166.9 | 180.0 | +13.1 |
| 営業利益 | 6.2 | 4.1 | 4.5 | +0.4 |
| 経常利益 | 3.1 | 2.1 | 4.0 | +1.9 |
| 当期純利益 | 7.0 | 4.7 | 2.5 | △2.2 |

独自技術の開発やグローバル展開を加速し、経営の意思決定をさらにスピードアップする必要があると考えています。

また、そのためには取締役会の監督機能を強化するとともに、中長期の戦略的議論をさらに活性化するためのコーポレートガバナンス体制が求められることから、2025年7月25日に開催した第51回定時株主総会の承認をもって、監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行いたしました。

2025年6月13日公表から、変更はありません。

今期の配当予想は、1株当たり9.00円を見込んでいます。

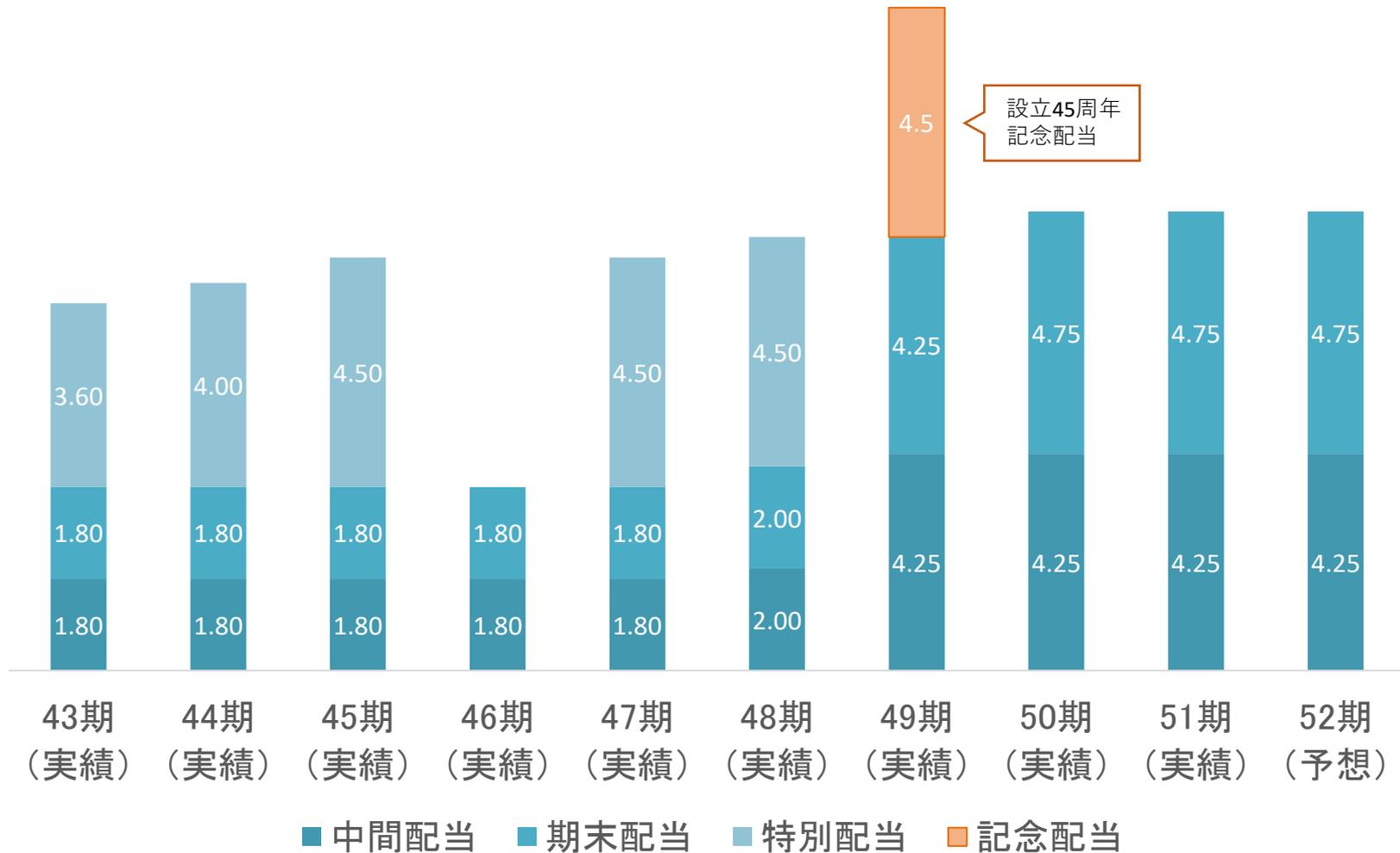
なお、最終的な金額は、通期の業績等を鑑みて決定する方針です。

(円／1株当たり)

| | 52期 予想 | 51期 実績 |
|---------|-----------|-----------|
| 中間配当 | 4.25 | 4.25 |
| 期末配当 | 4.75 | 4.75 |
| 年間普通配当計 | 9.00 | 9.00 |

➤ 配当に関する基本方針

当社は、每期安定的・継続的な配当を原則とし、最終的な金額は、通期の業績等を鑑みて決定する方針です。



(注) 上記金額は、2017年11月1日付の株式分割の影響を加味したものです。

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等については、様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料は皆様への情報提供を目的としており、投資を勧誘するものではありません。
- 本資料のご利用にあたっては、利用者の責任によるものとし、情報の誤りや瑕疵、目標数値の変更、その他本資料のご利用の結果生じたいかなる損害についても、当社はその責を負いかねますのでご了承ください。